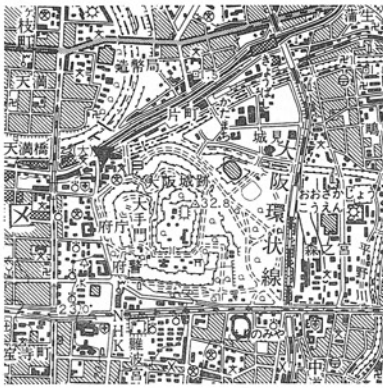


大阪・大坂城跡(2)

- 1 所在地 大阪府中央区大手前一丁目
- 2 調査期間 一九八九年(平一)七月～一九九〇年五月
- 3 発掘機関 大阪府教育委員会
- 4 調査担当者 佐久間貴士
- 5 遺跡の種類 城郭跡・城下町跡
- 6 遺跡の年代 奈良時代～江戸時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(大阪東北部)

○調査は府立婦人総合センター(仮称)建設に伴うもので、約一三〇㎡を発掘した。調査では奈良時代、中世、戦国時代(石山本願寺期)、

安土桃山時代、江戸時代前期の各遺構を検出した。木簡の出土した遺構・包含層はこのうち安土桃山時代の豊臣期に限られている。

豊臣期の大阪は、大きく前期・後期の二時期に分けられる。前期は天正一一年(二五八三)の大坂城と城下

町の建設開始から、慶長三年(二五九八)、城の西側と南側の城下町が取り払われ、新たに三の丸が新設されるまでである。この時多くの武家屋敷・町屋などが移転させられ、「大坂町中屋敷替」といわれた。後期はそれ以後、慶長二〇年、大坂夏の陣で大坂城が落城するまでである。慶長三年は秀吉が死去する年であり、前期は秀吉の時代、後期は秀頼の時代でもある。

発掘された豊臣期の遺構も前期・後期に分けることができる。前期は城下町の時期で南北に幅二間の道が通り、その両側に幅三尺の排水溝を伴い、道の両側に屋敷地が六区画復元できた。屋敷地の間口は広く、瓦葺きの大きな建物があり、鉄砲の火蓋・銃丸・鏃、小柄など多数の武器類が出土したことから、中級の武家屋敷と推定した。建物群は慶長元年の大地震で被害にあったらしく、ほとんどが新たに建て替えられていた。後期には厚さ三m以上の盛土がなされ、三の丸北側の城壁が構築された。ただし上部は慶長一九年の大坂冬の陣の講和後破壊され、石垣の下部と大きな桶側を積み重ねた井戸しか残っていなかった。

木簡が出土した遺構・包含層は、一点をのぞき大半は前期の武家屋敷の時期に伴うもので、天正一一年から慶長三年の間に限定されている。前期の包含層は細分できるところでは四つの層に分層できるが、ここでは一括して第七層で報告する。唯一第六層から出土した木簡(8)は、三の丸新設の慶長三年に行った石垣北側の盛土内から

出土したものであるが、「天正十五」年の紀年銘をもっている。

8 木簡の釈文・内容

溝
一
一

- (1) • 五十
- 九月廿一日
- (130) × 19 × 2 059

溝一八

- (2)
- | | | | | |
|---|---|---|---|------|
| • | ▽ | □ | □ | 右衛門尉 |
| • | ▽ | □ | □ | |
- 146×27×3 033

第七層

- (3) 「く味噌樽 一つ八木^{〔甚力〕}」
 160×26×3 0321

(4) 「くつゝ一たん七^{〔郎兵衛力〕}」
 123×24×4 0322

・「く(屋号) 徳芳」

- (5) 〔（屋号） 廿貫入惣兵衛〕 114×28×4 032

- (6) 米老石内藤右衛門

- (7) ・「慶三年
伝右衛門 (花押)
七月七日
」
- ・「慶三年
伝右衛門 (花押)
七月七日
」

第六層

- (8) 天正十五十二月七日
- | | | | | | |
|----|----|----|----|---|----------------------------|
| □□ | 百八 | 三 | □□ | 之 | 内 |
| | | | | | <small>〔足力〕〔百四拾足力〕</small> |
| 此 | 内 | □□ | 申 | 候 | 右 |
| | | □□ | 入 | 納 | □□ |
| | | □□ | | | <small>〔候也力〕</small> |

- 「V」
 255×43×5 032

現在まで木簡類は一二点、墨書のある木製品は二点である。内訳は荷札・付札類九点、鑑札一点、木片二点の他、「金将」の墨書のある将棋の駒一点、表裏に「串だんご」と「月星」を図案化した意匠のある用途不明の木製品一点である。

(1)は品名は不明だが、数量のみ「五十」とわかり、裏面に月日が記されている。(2)は品名・数量共に不明で差出人名のみわかる。(3)は「八木」某が差出人であろう。(4)の「つゝ」はどのような品物か

不明。「一たん」とあるので布であろうか。裏面屋号の下に「徳芳」とあるのは差出人と思われるが、通称であろうか。このような表記の仕方は珍らしい。(5)は品名部分が欠けている。(6)は上部がわずかに欠けて、日付の上に一字分墨痕がある。「米老石」の荷札。「内藤右衛門」の下の一文字は「、」とあり、読み方不詳。(7)は矩形の札で、四隅を少し削り、他の木簡より厚く、鑑札ではないかと推定している。「慶三年」は「慶長三年」の略記で三の丸新設がこの年の五月に命じられている。(7)は第七層でも上層から出土しており、武家屋敷が取り払われた時の整地層に該当する。まだ七月には大きな盛土工事がここまで及んでいないことがわかった。(8)は「天正十五」のみで年の字は書いていない。

なおこの他に「みずのとの 孫三郎 とり」と三行に彫刻し、多数の焼印を押した箱状の木製品(枳か)が第七層下層から出土している。「みずのとの」「とり」は「癸酉」で天正十一年(一五八三)、大坂築城開始の年にあたる。

なお釈読にあたっては大阪城天守閣の渡辺武・内田九州男・北川央の各氏の御教示を得た。

9 関係文献

佐久間貴士「大坂城跡の発掘調査―府立婦人総合センター建設予定地」『大阪府下埋蔵文化財研究会(第22回)資料』(一九九〇年)

(佐久間貴士)

木簡研究 第二〇号

巻頭言―木簡学会の十年―

原 秀三郎

一九八七年出土の木簡

概要 平城宮・京跡 興福寺勅使坊門跡下層 藤原宮跡 藤原京跡
藤原京左京九条三坊 紀寺跡 長岡宮跡 長岡宮・京跡 鳥羽離宮跡
千代川遺跡 矢谷遺跡 大坂城跡(1) 大坂城跡(2) 梶原南遺跡
宅原遺跡(豊浦地区) 長田神社境内遺跡 書写坂本城跡 砂入遺跡
跡 杉垣内遺跡 清洲城下町遺跡 岩倉城遺跡 勝川遺跡 刈安賀遺跡
山中遺跡 小町一丁目一〇七番地点遺跡 宮町遺跡 川田川遺跡
原田遺跡 光相寺遺跡 妙楽寺遺跡 釜淵遺跡 南古館遺跡 大楠遺跡
手取清水遺跡 角谷遺跡 横江莊遺跡 白坏遺跡 草戸千軒町遺跡
延行条里遺跡 長門国分寺跡 安養寺遺跡 金光寺跡推定地 博多遺跡群(築港線関係第三次調査) 吉野ヶ里遺跡群 本告牟田遺跡

一九七七年以前出土の木簡(一〇)

平城宮跡(第四次)

中世木簡の一形態―山札・茅札についての覚書―

石 井 進

雲夢睡虎地秦墓竹簡「日書」より見た法と習俗

工 藤 元 男

木簡の保存処理

沢 田 正 昭

彙報

『木簡研究』六―一〇号総目次

研究集会報告一覽

木簡出土遺跡報告書等目録

木簡出土遺跡一覽

頒価 三八〇〇円 寺崎保広 寺崎保広 寺崎保広 寺崎保広